

日本電計の中国法人である電計貿易（上海）は、中国の上海汽車會展中心（上海市）で、自動車分野の検査・計測関連の展示会「カー・テストイング・チャイナ（CTC）2019」（日刊工業新聞社共催）を開いた。17社が出展。会期は24日まで。（上海＝大串菜月）

展示会は「中国自動車」で催される。日本電計工程学会年会・展覧会 海外営業本部の高橋浩（SAECC）「内次取締役は「最先端分



電計貿易（上海）のブースに展示した

「ソフトカー360」

日本電計、上海で展示会

野の研究者らが来場する展示会で、出展メーカーの製品や技術が、中国における新エネルギーと自動車産業の発展に役立つ。当社はその機会創出に貢献したい」と語る。

上海小野測器測量技術（上海市楊浦区）は、測量速度が従来機比2倍の分速0.1mm/s、3600rpmに対応したレーザー面内速度計「LV-7000シリーズ」など4製品を展示。同製品はレーザーにより非接触でタイヤの実回転数などを計測できる。

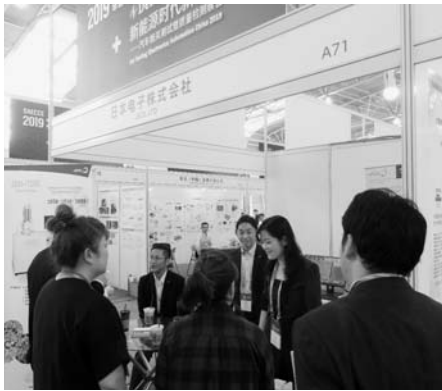
またモーターの電動化により異音の計測などの需要があるため、騒音計を展示。高機能精密騒音計「LA-7

車関連、先端研究者ら来場

000シリーズ」は中国語対応のハンディタイプで、工場内でも簡単に測定できる。ポータブルFFTアナライザー「CF-940」は異音の解析から対策、評価まで可能だ。平原俊之総経理は「今回は学会関係の人も訪れるため来場者が向に興味を持つのか反応をみたい」と出展の目的を話す。

同展示会に初出展の「日本電子の中国現地法人は、中国の民需拡大に力を入れる。上海分社」の大ききまで確認できるため、自動車部品の異物発見や元素解析などに活用できる。

「7割は大学や国の研究機関。これを民間企業にもコンパクトに業にも広げ、開発や品質検査などで活用して車技術研究センター（CATARC）傘下の上海CATARC自動車技術と共同で開催。電計貿易（上海）のブースでも製品展示を実施。



7000 Neoscore（横浜市緑区）の慣性モオスコリーメント測定器「レズニック350F」や、初出展の日米DRIアドバンスト本電子は走型電子顕微鏡などで中国の民間企業を開拓

「ソフトカー360」のデモ機などを展示した。